

日本カリキュラム学会研究・広報委員会からのお知らせ

第8回研究集会(最終案内)

下記のとおり、第8回研究集会を開催いたします。ふるってご参加ください。
本集会は、会員外にも公開しています。ご関心のある方々へのお声かけをお願いいたします。

日 時：2017年3月5日（日）13：30－16：30 （受付13：00～）

場 所：お茶の水女子大学 文教育学部1号館3階302教室

（地下鉄丸の内線「茗荷谷駅」下車、徒歩8分）

参加費：無料

発表内容：

■奥村好美（兵庫教育大学・講師）

「オランダの学校評価と学校改善から学ぶ

－豊かな学びと学校の多様性の視点から－

現在、学校の説明責任が強調される中、真に学校改善に資する学校評価が求められています。「教育の自由」を有するオランダでは、まさに学校評価を通じて、一定水準の教育の質を保証しつつ、いかに子どもたちの豊かな学びを実現しうる多彩な教育実践を守りうるかという問いへの模索が行われています。

本発表では、豊かな学びと学校の多様性という視点からオランダの初等教育における学校評価の展開や学校改善の事例を検討し、日本への示唆も含めてご報告いたします。

■内藤恵子（元仙台市立七北田小学校・校長）

小泉祥一（白鷗大学教育学部・教授）

「新教科『地域共生科』開発の意義と効果

－地域貢献活動を通して自己形成する子どもの育成を中心に－

現在、中教審において次期学習指導要領の内容が検討され、その中で「学ぶ意義」について強調されています。仙台市立七北田小学校においては、平成21年度から4年間、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、大学と共同で「学習の社会的意義」と「自己肯定感」に注目し、地域貢献活動を通して学び、子どもの自己形成を促す新教科の開発を行いました。

本発表では、その研究過程を報告するとともに、新教科「地域共生科」開発の今日的意義と「地域共生科」の実際と教育効果について、ご報告いたします。

司会者：小泉祥一（白鷗大学教育学部教授）

黒田拓志（香川大学教育学部附属高松小学校指導教諭）

問い合わせ先：白鷗大学教育学部 小泉研究室

電話：0285-22-9875（直通、ファックス兼用） E-mail：koizumisho@gmail.com